

# ACT NEWS

エー・シー・ティール ニュース

こんにちは！ACTニュース編集部です。6年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。中学生になっても自分自身を大切にしながら、トライ・アンド・エラーの気持ちで、新しいことにチャレンジしてください。それでは令和6年度に実施された湯河原町3小学校でのACTを振り返っていきましょう！

ACT NEWS 第18号 2025年3月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

## 小学校でのACT

小学校のACTは中学校と同様に、わたし（自分自身）と、あなた（他者）と、みんな（グループ・クラス＝社会）と向き合うといった、コミュニケーションをテーマとする「芸術体験」を実施しています。小学校での3回は生きていくことの根幹となる「感覚・感性・表現」をめぐる学びの下地をつくりたいと考えています。

## 6年生「うれしいってどんな色？」

東台福浦小学校	9月20日
吉浜小学校	10月4日
湯河原小学校	10月31日



6年生の1回目は秋に。ここではうれしい時の気持ちを抽象画で表現します。自分の気持ちを表現する作品ですから「こう描きましょう」という方法はありませんし、抽象表現なので「上手/下手」という見方や評価もありません。一方で「正解のない自由さ」は、時に不自由さを感じることがあります。確かに描き方やその手順が決まっていれば、描きやすいこともあるかも知れません。でも、それだけだと決まった枠（与えられた自由）の中だけの表現になってしまう可能性も。だからこの時間はあえて「はみ出そう！」です。

みんなの感想は「自分のうれしさを絵にするのは初めてで、みんなのうれしいも見られてよかった」「今日のACTはなんか…不思議な気持ちになった。こう、楽しいといふかなんといふか…よくわからないけど、ここちよく…とてもよかった」「今まで自分の感情を考えたことがあまりないので、こうやって考えて、しかも色にしてすごく自分の感情がわかってうれしかった」「うれしいってひとそれぞれ。みんなの違ううれしいがすごくきれいだった」「自分の気持ちがどうなのかがよくわからなかったけど、目をつぶっていたらだんだんうれしいことがわかってきた。絵を描いてみたら自分の気持ちも見えてきた」「自分の心などの言葉で表せないことを表すことができたので、絵はすごいなと思った。そして抽象画を描くことで自分の心をより分かりやすくすることも初めて知った」「また描きたくてうずうずしている」「何も考えずに気持ちを描くのは楽しかった。明日同じ絵を描いてと言われても描けない『うれしい気持ち』を表現した、たった1つの絵が完成した」などなど。

## 6年生「マシュマロ・チャレンジ」

吉浜小学校	2月26日
湯河原小学校	2月27日
東台福浦小学校	3月6日



6年生2回目はマシュマロ・チャレンジを実施しました。3～4人1組になり、パスタを材料に構造物をつくって、マシュマロをできるだけ高い位置に置き、その高さを競います。世界公式ルールに則って行いました。ちなみに世界記録は99センチだそうです。

まずはグループで10分間の作戦会議。どういう構造だと建ちやすい？どうしたら強度は保てる？安定感を持たせるには？などを相談。その後、合図でスタート！制限時間は20分。楽しみながらトライ・アンド・

エラーの必要性を学びました。小学校の楽しい思い出の1つとして、友だちと協力して創意工夫と達成感、時に残念な気持ちを感じながら、たくさんの笑い声と共に過ごしました。

みんなの感想です。「次にこういう機会があったら色々な方法を試して成果を見つけていきたいと思った」「この体験をして積み重ねは大事だし、失敗も大事だなと思った」「今回、あきらめないで何度もやるのが大切だと知った」「難しかったけど、あきらめないで最後の最後まで挑戦できたし、本当に楽しかった」「挑戦して失敗しないと前へは進めないのだなーと思った」などなど。

## 5年生「耳をすますとわかること」

湯河原小学校	3月5日
東台福浦小学校	3月7日
吉浜小学校	3月14日

5年生は3月上旬に「はじめまして」のご挨拶と共に小中連携の5年間、全12回のACTがスタートしました。導入部では1分の「沈黙をつくる、静寂を聞く」のワークを実施。「自分を世界の中心にあるマイクだと思って」と伝え、遠い音、小さい音に耳を傾けました。耳の感度も上がったところで、グループに分かれて校内の音探しの旅に出る「音の探検隊」。おもしろい音やふしぎな音を探す、小さな冒険です。多くの児童が学校の音風景や自分を取り巻く世界に対して傾聴する姿勢を見せ、真剣に耳を傾けてくれました。



同じ風景の中にも「何が聞こえてきたのか」は、人それぞれです。なので、みんなに聞こえている音もあれば、2～3人にしか聞こえなかった音もありますし、私にしか聞こえない音もあります。これは音以外も含む、感性全般の話で「すべての人が同じものを同じように感じているわけではない」という、一人ひとりの受け取り方の違いを実感する時間となりました。

みんなの感想には「ふだん聞こうとしてないで、気に留めてもいなかった音がたくさんあった」「1分間、聞くことに集中していたら雨の音や鳥の音が聞こえた」「最初は自分には聞こえなくても意識していたら聞こえるようになった」「最初の1分間で世界がぐっと変わった感じがした」「音を探しに行った時、歩いているだけでワクワクした」「はじめはみんなと同じ音を聞いたと思っていたけど、ひとりしか聞こえなかった音があったりして、正直おどろいた」などなど。

それでは次号にまたお会いしましょう！